学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院
学院報

学院報第23号

学校法人　高知学園
高知リハビリテーション学院
平成28年４月２日発行
発行
学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochi-reha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp

卒業式（３月６日）

これからのリハビリテーション学院への抱負⑫

学院長　大倉　三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、温かいご支援、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様に少しでも学院のことを知っていただこうと始めました学院報も第二十三号の発刊を迎えることになりました。

平成二十七年度　高知リハビリテーション学院の卒業式が三月六日、吉良正人（学校法人高知学園理事長）理事長出席のもと、土佐市市長　板原　啓文様をはじめ日頃より本学院に深いご理解とお力添えを賜っております関係各位の団体や施設から多くの皆様方のご臨席を賜り、盛大に挙行することができましたことを卒業生とともに心から御礼申しあげます。また、卒業生の皆さんをこれまで見守り支えてこられました保護者の皆様にも教職員一同心よりお祝いを申しあげます。平成二十七年度は理学療法学科第四十五期生六十九名、作業療法学科第二十期生四十名、言語療法学科第十六期生三十二名、合計百四十一名の皆さんを送り出すことができました。

卒業式の告辞では「英語で卒業式はCommencementと呼ぶように、卒業は同時に新たな旅立ちを意味しています。皆さんは本日の卒業式で一つの区切りをつけ、社会人として、またセラピストとして新たな人生の第一歩を踏み出す訳であります。そして障害のある方、病気で悩んでいる方、介護を必要としている方々がその人らしい生活や人生を取り戻すための支援を行う専門職として、関わりを持つことになります。そのためには、利用者を取り巻く様々な課題に対して、本学院の教育目標でもある進取の気風（自ら困難な課題に果敢に挑戦する態度）を発揮し、それぞれの課題に主体性と柔軟性をもって真正面から取り組む姿勢を大切にして歩んでいって下さい。」とお願いをしました。卒業生の皆さんが益々目的意識と向上心を持ち、利用者本位の自立支援まで考えられる能力と思いやり、共生の心をもつ人間性豊かな「理学療法士」、「作業療法士」、「言語聴覚士」として精進され、これからの地域社会の発展のために貢献するセラピストになってほしいと思います。

平成二十八年度も創立五十周年に向けて取り組んでいる教育環境の整備事業を更に積極的に進めていきたいと考えております。どうか今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

人間総合科学大学　卒業報告

人間総合科学大学指導連絡会　委員長　中野　良哉

平成27年度の高知リハビリテーション学院卒業生のうち９名が人間総合科学大学人間科学部人間科学科を平成28年３月６日に卒業しました。高知リハビリテーション学院では，昭和62年度から併修制度を取り入れ，平成12年度からは人間総合科学大学と併修提携を結び，現在は約１割から２割程度の学生がこの併修制度を利用しています。併修制度とは，本学院で学ぶと同時に大学で学び，学士の資格を取得する制度です。併修制度を利用している学生は，４年間にわたり学院の学習と併せて，リハビリテーション分野の近接領域である「こころ」「からだ」「文化」の３つの領域を中心に学んでいます。大学との併修は通信制であるため，自ら学習計画をたて，学習状況を客観的に把握し，学習の過程をコントロールする力が必要とされます。４年間にわたり学院と併修大学の学業を両立させ，学士の資格を取得された卒業生は，専門職に必要とされる，主体的に学び，勉学に向けて自己を律する学習の姿勢を身につけられたことと思います。このような姿勢を医療の場においても十分に発揮し，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士としてご活躍されることを期待しております。

平成27年度卒業生　特別表彰者

○職業教育・キャリア教育財団　学習表彰者
- 作業療法学科　三浦　朋之
- 理学療法学科　江口　海緒
- 言語療法学科　島﨑　風姫

○全国リハビリテーション学校協会　優秀賞
- 言語療法学科　横山　愛美
- 作業療法学科　西森　千明
- 理学療法学科　澤田　裕

○日本理学療法士協会優秀賞
- 山崎　颯

○日本言語聴覚士協会会長表彰
- 上岡　清乃

○日本作業療法士協会優秀学生賞
- 大坪　育未

○学院長表彰
- 理学療法学科　赤松　正教　　西森　涼子
- 言語療法学科　渡里　美緒
- 作業療法学科　竹村　隆文

卒業研究発表会

言語療法学科　補導主任　櫻木　理恵

学生生活四年間の集大成として、平成二十七年九月二十九日に第十六回言語療法学科卒業研究発表会が行われました。今年も、記憶から嚥下領域まで幅広い内容で研究に取り組み、この日を迎えることができました。言語療法学科では一、二年次生より、セミナー活動を通して、研究の方法を学んでいます。最初はグループ単位で研究を行い、三年次生からは個人での研究活動となります。文献収集、テーマの立案、データ収集、分析と苦労も多かった分、完成した際の達成感も大きかったことと思います。この貴重な経験を今後も活かし、卒業後における臨床研究活動への足掛かりになればと思っています。

最後になりましたが、今回の卒業研究作成にあたり多くの方々にご協力を賜りましたことを熱く御礼申しあげます。

作業療法学科　補導主任　有光　一樹

今年度は四十一名の学生が卒業研究発表を行いました。研究内容は、臨床的なものから学生生活に至るまでバラエティに富んでおり、学生ならではの視点も多く、有意義な時間を過ごすことができました。卒業研究は、テーマ探しから検証方法の計画、それらの結果を統合・解釈し文献と自分の考えを照合していくことが必要です。学生たちは、最初文献を探すことさえ難しい状況であり、ましてその内容を解釈していける状態ではありませんでした。ただその作業野の繰り返しにより抄録作成、卒論発表をすることは、多大な努力と忍耐を必要とします。学生たちは、卒業研究の中で読解力・探究心・相手に意思を伝える力を向上させ、社会で働くための基礎となるものを学んだことと思います。これからもその活動を続け、社会に貢献できる人間に成長していただき、どこか学会で会える時を楽しみにしています。

理学療法学科四年　西森　涼子

卒業研究の準備は三年生の頃に開始しました。先生方に助言をいただきながら、測定方法や条件を細かく定め、臨床実習までの短期間でデータ収集を行っていきました。データ収集は他の学生たちの協力もあり、スムーズに行うことが出来たのですが、方法・結果・考察などを分かりやすく要約する作業には苦戦しました。また、研究発表はパワーポイントでの発表であったため、写真やグラフを多く用い、見やすいスライドになるよう、工夫しました。自ら研究内容を考え、人前で発表する機会はこれまで卒業研究のみだったので、とても良い勉強になりました。この貴重な経験を活かし、卒業後も学びに対して前向きに精進していきたいと思います。

学生生活を振り返って

言語療法学科　高橋　美羽

この学院での生活はあっという間に過ぎていったように感じています。学院生活を振り返ると、先生方や仲間、家族の存在が大きなものだったと思います。特に臨床実習では、その存在が大きなものであると改めて感じました。臨床実習では色々な失敗をし、自分の力不足が辛かったこともありました。そんな時に仲間と他愛もない話をし、お互いの実習の様子を話すことで、頑張る力をもらいました。実習を終えた時には、同じ職を目指す仲間がいてよかった、この職を目指して良かったと心から思うことができました。この想いや実習での経験は、臨床に出ても忘れることはないと思います。入学した当初は緊張や不安な気持ちでいっぱいだった教室が、今では大切な居場所になりました。教室で楽しい話をしたり、時には悩みを相談したり、テスト期間に遅くまで教室で居残って勉強をした日々が、今では懐かしく感じます。もう学生として、この教室に集まることがないと思うと寂しい気持ちでいっぱいです。最後に同じ夢を持ち支え合った仲間、最後までご指導をしてくださった先生方、そして四年間見守ってくれた家族へ、この場をお借りしお礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。

作業療法学科　下元　由惟

私の本学院での学生生活を振り返ってみると、辛いこと不安な事も多々ありましたが、楽しいことも多かった四年間でした。地元を離れ一人暮らしという新しい環境の中で生活していけるのか不安になり、友達が出来るか心配にもなりました。しかし今では、気の合う友人も出来、毎日楽しく過ごすことが出来ました。辛い時にも支えてもらい、レクリエーションや学院祭を通してクラスの絆も深まったと思います。四年間を通し特に大変だったのは臨床実習でした。実際の臨床の場で、患者様の事を理解する事の難しさや、治療する事への責任感も経験し、辛い時期もありましたが、それ以上に得られるものがありました。この四年間を通して私は大きく成長できたと思います。ご指導していただいた先生方、応援し続けてくれた家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。四月からは作業療法士として頑張っていきたいと思います。

理学療法学科　赤松　正教

たくさんの人と出会い、たくさんのことを学び経験した四年間となりました。よさこい、学院祭、ボランティア活動地域や実習など経験しました。クラスの仲間と一致団結し、ひとつのことを成し遂げる大切さや地域の方との交流、働く喜びなど学校の行事や学校外での行事でも学ぶことができました。実習や国家試験勉強では、戸惑いや苦労したときもありました。そんなとき、支えてくれたのが同期の仲間でした。励ましあい、時には笑いあって困難な壁を乗り越えてきました。学校の先生方、同期の仲間、先輩・後輩や実習先の先生や患者さんとの出会いがあり自分自身成長することができました。先生方や先輩方との縦の繋がり、そして同期との横の繋がりを大切にしていきたいです。高知リハで学んだ多くのことを臨床現場でいかし、周りから信頼される理学療法士になれるようこれからも努力を続けていきたいと思います。

国家試験対策

国家試験対策室　委員長　重島　晃史

国家試験対策室室長の重島と申します。国家試験対策室（以下、国対室）は平成二十七年度に開設された新しい組織です。国対室が開設された背景には、これまで各学科における国試対策の方略や学習状況が他学科に対して不透明だったことがあります。近年、国家試験が簡単ではなく、本学院の合格率も十分とは言えない状況です。そのような中、これからの国試対策は個々の学科主導ではなく、学校全体で取り組んでいくことが急務となりました。各学科が緊密な連携を図り、全学的な支援体制を構築・強化し、国家試験合格に寄与することが国対室の目的です。現在、国対室では定期的に会議を行い、各学科の学習状況を報告し情報交換する中で、学習支援体制を整備しております。また、国対室では国家試験や模擬試験の結果から苦手科目・分野を分析し、一年次から三年次までの教育活動の改善に役立てていくことも検討しております。国試合格はもちろん、学院の教育活動をより良くしていくため国対室の立場からも支援して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

教員紹介

言語療法学科
櫻木　理恵

高知リハビリテーション学院言語療法学科の二期生で、本学院に教員として戻ってきて、早、今年で七年目となりました。この三月に初めて担任をさせていただいた言語療法学科十六期生を卒業生として送り出しました。初めての担任ということもあり、学生にも色々と迷惑をかけたことも多かったと思います。しかし、学生達からの助けもあり、私自身十六期生とともに過ごした四年間で多くのことを成長できたように思います。これからも、学生との絆を大切に研鑽を積んでいきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

作業療法学科
金久　雅史

私は、本学院作業療法学科の十一期生です。卒業後は、高知市にある社会医療法人近森会に勤務しておりました。作業療法士としては九年目とまだまだ未熟者ではありますが、昨年より本学院に入職し、若者のパワーに圧倒されながら瞬く間に一年が経ちました。臨床現場から教育現場に環境が変わり、「伝えること」の難しさを改めて感じる機会が多かった一年でした。本年四月には新入生を迎え、補導主任を務めさせていただきます。作業療法士になろうと希望を持って入学される皆様と、ともに学び、ともに遊び、ともに考えること楽しみたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

理学療法学科
片山　訓博

入学生のみなさま、私は理学療法学科の片山訓博です。高知リハビリテーション学院を二十四期生で卒業し、理学療法士歴は二十二年目（学院での教員生活は十三年目）です。担当教科は、理学療法学科二年次生の理学療法検査演習、三年次生の義肢装具学、言語療法学科一年次生の健康科学です。研究では、呼吸器系に関する研究を行っています。最近では低酸素環境（所謂、高地環境）が身体に与える影響を中心に、パーキンソン患者の歩行に与える影響も学会では発表しています。趣味は、小学二年生から現在も続けている剣道です。学院では剣道部の顧問を担当しています。学生の皆さんとは、一緒に練習や試合にも参加しています。興味のある方は、是非剣道部に入部してください（初心者大歓迎）。宜しくお願いいたします。

知っとうせ

国家試験受験対策

国家試験の出題形式は、これまでＡタイプ（設問に対して五つの選択肢のうちから一つの正解肢を選ぶ）と、Ｋタイプ（設問に対して五つの選択肢を置き、肢の二つまたは三つを組み合わせた解答コードのうちから一つを選ぶ）、そして、Ｘ２タイプ（設問に対して五つの選択肢を置き、二つの正解肢を選ぶ）の三つのタイプの問題から構成されている。近年、Ｋタイプの問題は減少・廃止する傾向にある。Ｘ２タイプの二択の問題が増加すると国家試験の難易度は上がる。五つの選択肢の中から一つだけ選ぶ場合と二つ選ぶ場合では、確率的に正答率が異なる。（Ａ）「きちんと勉強していれば」いずれも正しく解答できる＝一〇〇％。しかし、（Ｂ）「全く分からない」場合（＝勘）の正答確率は二〇％（一択）から一〇％（二択）へ低下する。二択問題が増加すると、平均点を下げる要素となる。二択の問題が増加するということは解答番号をマーキングする時間も増える。例えば一〇〇個の塗りつぶしを五分で出来るとしても、二択が増え一四〇個塗りつぶす場合は単純に七分かかる。限られた時間内では、問題を考え解く時間を減らすことになる。

さらに、具体例として

（Ｃ）３＋８＋２
（Ｄ）３＋８＋２＋４＋９

これら（Ｃ）と（Ｄ）の２つの問題に、いわゆる難易度の差は殆ど無い。しかし実際に解答する側からすると（Ｄ）は手間がかかり、内容的にも難しい。今後、国家試験の問題は（Ｄ）のように「より、思考力や応用力が要される」。すなわち、①推論型（理学・作業・言語療法の常識から推論する問題、暗記した知識ではなくその場の設定に応じて考えることで答えを導く）、②解釈型（データや症状が何を表しているかを解釈する問題、疾患の特徴をどれだけ理解しているかが問われる。教科書そのままの知識を問うのではなく、知識を使ってデータを解釈し、病名や病態を導いて答える問題。暗記だけでは解けず、病態をどれほど深く理解しているかを問う）、③問題解決型（データや症状を解釈し、更に問題を解決するにはどうすればよいか、臨床現場での対応を問われる問題）が増えてくる。もちろん、知識そのものを問う問題、すなわち教科書的な内容を理由なしに暗記し、想い起すことで解答する「想起型」も多く出題されると思うが、今後はより細かい内容を問う問題が出題されるように感じられる。

（教務部　濱田）

クラブ紹介

平成27年度 クラブ（同好会）一覧表

	クラブ名
1	野球部
2	フットサル部
3	バレーボール部
4	バスケットボール部
5	ソフトボール部
6	卓球部
7	バドミントン部
8	剣道部
9	吹奏楽部
10	軽音楽部
11	ソフトテニス部
12	ダンス部
13	柔道同好会
14	スケートボード同好会
15	ツーリング同好会

ダンス部・軽音楽部活動

地域貢献（火渡川　一斉清掃）

理学療法学科教員　高地　正音

二月二十一日　本日は学院側に流れる火渡川の清掃ボランティアに教職員八名　学生六名の計十三名で参加させていただきました。数年前は一人の学生の集めたゴミの量が袋一杯になったこともありましたが、毎年ゴミの量も少なくなってまいりました。一斉清掃の成果の表れだと思います。これからも、可能な限り地域に貢献できる活動を続けていきたいと思います。

「就職ガイダンスの報告及び就職状況」

就職指導委員会　委員長　平賀　康嗣

臨床実習を終えた４年次生は、10月から12月を中心に国家試験勉強に取り組む中、就職合同説明会への参加、就職マナー講習、病院訪問、履歴書の作成等、就職活動に励みます。

平成27年度就職合同説明会では63施設134名と多くの採用担当者にご参加いただき、熱気あふれる就職説明会となりました。当日は、講堂と食堂に分かれブース形式にて行い、学生達は事業内容等説明を受け、具体的な雇用条件や職場環境などについて真剣に聴き入っていました。また、県内外の採用担当者の方からも楽しく、わかりやすく説明していただき、会場では真剣な中にも和やかな雰囲気が漂い、これから就職先を考える学生にとって、今後の活動の第一歩となる良い機会となりました。27年度の卒業生就職割合は、県外40.2%、県内59.8%でした。（H28.２月末現在）就職先は下記のとおりです。

高知赤十字病院・社会医療法人近森会・いずみの病院・野市中央病院・高知大学医学部附属病院・南国中央病院・高知整形･脳外科病院・白菊園病院・須崎くろしお病院・くぼかわ病院・京都大原記念病院・道後温泉病院・初台リハビリテーション病院　他多数

防災への取り組み

災害・防犯対策委員長　石川　裕治

平成二十八年二月十九日（金）に、平成二十七年度災害対策講演会を実施しました。今年度は、一年次生を対象に、講演会、避難訓練、消火訓練を行いました。講演会は、高知気象台の荒谷博氏、紫和正則氏をお招きし、「地震・津波災害に関すること」というテーマでお話をしていただきました。最初は、あまり聞いていない学生もいましたが、東北大震災の映像が流れると、話に集中する様子が窺われ、実際に起こるかもしれない「南海トラフ地震」に興味を持ち、災害に備える心構えができたように感じられました。また、避難訓練も速やかに行われ、危機意識を持つことができたように思いました。消火訓練は、消火器を使用するのが初めての学生、教職員がおり、いざというときの備えになったと思います。

平成28年度
前期行事予定表

４月３日	入学式
４月４・５日	オリエンテーション 健康診断
４月６日	前期授業開始
４月28日	レクリエーション
７月29日～８月５日	前期定期試験
８月６日～９月30日	夏期休業
８月10日・11日	よさこい祭参加
８月20日	土佐市大綱まつり

食堂（卒業ランチ）

土佐市就学奨励費について

土佐市在住（土佐市の賃貸宿舎の居住者も含みます）の学生に対して、前期、後期それぞれ３万円の就学奨励費が交付されます。説明会（６月予定）を開きますので、該当する学生は忘れずに出席してください。

スクールバスの運行について

授業の開始（終了）時間に合わせて、JRいの駅⇔天王ニュータウン⇔学院間を１日６往復、スクールバスを運行（無料）しています。いの駅発の第１便は８時10分発です。運行ダイヤは学内の各階掲示板やホームページに掲載しています。学院祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。